

## スタイル抜群のクーペだが やや価格が高め



本誌認定

オススメグレードは GT  
車両価格298.1万円～

排気量	駆動方式	燃費
2.0L	FR	11.8 km/L

ATでも楽しいドライビング

編集部おすすめランキング  
セダン&クーペ部門5位

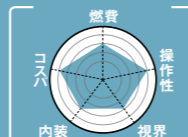
トヨタ

86

かつて人気だったAE86スプリンタートレノの現代版として蘇った  
ライトウェイトスポーツカー。スバルとの共同開発

総合評価

A



若者も含め普通の人が見える価格帯のスポーツカーとして運転する楽しさだけでなく実用性や維持費なども実に高次元でバランスされており、飽きずに楽しめる。

乗って、試して、わかった結論

スタイル抜群のスポーツクーペ

買いの決め手 **ポイント**

1 速さではなく楽しさで選ぶ

登場からそれなりに時間の経っているクルマながら、毎年のように行われる改良やグレード追加などにより魅力を保っており、欲しいなら購入を強く勧める。

操作性



GOOD

86は少なくない販売比率を持つATでも十分運転を楽しめる



名車ハチロクが現代に登場!  
楽しく乗れるスポーツカーだ!

スバルとの共同開発によるFRの小型スポーツカーとして2012年2月に登場(スバル版はBRZ)。86の大きな特徴はスポーツカーでありながら標準モデルではハイグリップタイヤを履かない点など、「速さよりも楽しさを求めたスポーツカー」であること。このコンセプトは世界中で高く評価されており、発売から6年以上が経ちながらも堅調な販売を保っている。

## 4代目にて乗り味も成熟 日常カーとして大幅進化



本誌認定

オススメグレードは A  
車両価格277.8万円～

排気量	駆動方式	燃費
1.8L+モーター	FF	37.2 km/L

低燃費=プリウスの代名詞

編集部おすすめランキング  
セダン&クーペ部門3位

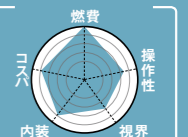
トヨタ

プリウス

世界に誇るエコカーの代名詞。進化を続けてスタンダードハイブリッドカーとして非常に高い完成度になった

総合評価

A+



先代モデルが輸入車や同クラスのライバル車に劣っていたハンドリングや乗り心地、安全性を劇的に向上。このクラスで燃費を重視するならば、依然ナンバー1の存在。

乗って、試して、わかった結論

先代よりも乗りやすく進化

買いの決め手 **ポイント**

1 いい意味で特別ではなくなった

クセのあるスタイルやリアシートへの乗降性の悪さといった難点はあるが、逆に言うならこの2つに目を戻れるなら燃費も含め日本で買える最高の実用車

燃費性能



GOOD

現行プリウスではプリウス史上初となる4WDも設定される。



先代まであった違和感が  
クルマとしての進化で消えた!

先代モデルの爆発的大ヒット以来、日本における国民的存在となったプリウス。現行モデルは2015年12月に登場し、ハイブリッドシステムは先代モデルの改良版となるが、燃費はもちろん新世代のTNGAプラットフォームの採用による走行性能や安全性も劇的に向上している。上級グレードのA系にはPHVと同じ大型モニターを持つカーナビも設定される。

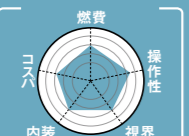
編集部おすすめランキング  
セダン&クーペ部門6位

トヨタ  
アリオン/  
プレミオ

コロナから続く伝統の4ドアセダン。取り回しの良い5ナンバーサイズでどんなシーンでも使いやすいモデル

総合評価

A-



目立った問題こそないものの、5ナンバーサイズなこと以外強い魅力もないというのが率直なところ。サイズに制約がないなら他のクルマも検討するべきだ。

## 希少な5ナンバーセダン 設計の古さが気になる



なつかしい木目パネル



本誌認定

オススメグレードは アリオンA18Gパッケージ、  
プレミオ1.8X「Lパッケージ」  
車両価格277.8万円～

排気量	駆動方式	燃費
1.8L	FF	19.2 km/L

インテリア



GOOD

オーソドックスなインテリアであるが、操作性は良好で使いやすい



乗って、試して、わかった結論

慣れ親しんだセダンがいい

買いの決め手 **ポイント**

1 変わらないスタイルを選ぶ

各部の古さは否めないが、5ナンバーサイズのミドルセダンを求める人には貴重な存在なのは事実。今後この種のクルマはなくなる可能性も

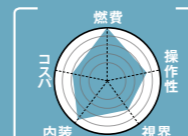
編集部おすすめランキング  
セダン&クーペ部門4位

トヨタ  
プリウス  
PHV

外部電源から充電可能なプラグインハイブリッドモデルのプリウス。ハイブリッドカーだが電気自動車と分類される

総合評価

A



カッコいいスタイル、リアルワールドで50km近いEV走行距離を持つなど「よりいいプリウス」に仕上がっており、価格に納得できるならこちらを勧めたい。

普通のエコカーでは我慢できない  
人へのとびっきり特別なプリウス

バッテリー容量をプリウスの約8倍としたプラグインハイブリッドカーとして2017年2月に登場。プラグインハイブリッド化と同時にプリウスに対し全長の延長や動力性能の向上なども施されており、プリウスより若干上の車格のイメージを持つ。またソーラー充電システムのような未来を感じさせる装備やスポーティなGR SPOTRも設定される。

## 充電可能なプリウスは スタイルも価格も一回り上!



高級感アップも使い勝手↓

本誌認定

オススメグレードは A  
車両価格380万円～

排気量	駆動方式	燃費
1.8L+モーター	FF	37.2 km/L

シート



プリウスPHVは4人乗りのみの設定で高い高級感も持つ



乗って、試して、わかった結論

電気自動車より上質さ

買いの決め手 **ポイント**

1 上質なプリウスが欲しいのなら

今後プラグインハイブリッドが次世代エコカーの1つの柱となりそうなことも考えると、価格の高さ以外はこちらがプリウスの本命といえる